

21世紀を迎えて

常務取締役 小 宮 衛



21世紀が幕を開けました。

100年前の1901年には、大英帝国のビクトリア女王が崩御し重商主義の終焉を思わせるとともに、科学の分野ではイタリアのマルコーニが長波を使って大西洋横断無線通信でモールス信号を送るのに成功し、また第1回のノーベル賞がX線の発見者レントゲン博士に授与されています。当社では、乾板、印画紙の製造の研究所と工場の建設を目指して、新宿角筈に用地を選定した年でした。

それより前に、電灯、映画、蓄音機、電信、電話の発明があり、ガソリン自動車の出現、そして数年後にはライト兄弟による初飛行が成功したり、新しい工業文明の萌芽が見えています。しかし、この時点で、次の百年間の人類の生活、社会の変化を正確に予測したでしょうか。

21世紀、次の百年の進歩と変化はさらに加速することは明かですが、どのような姿になるのかは全く予想もつきません。

しかし、新しい世紀の入り口では、はっきりしていることは「IT革命」に象徴される変化であります。通信の高速大容量化、双方向化、

ネットワーク化、端末の高速大容量化、大衆化は、半導体技術、光技術、ソフトウェア技術を背景として急速に進みます。それはデータ、音声のみならず、大量の画像をボーダレスで、誰とでもやり取り出来る世界です。

医療は、印刷は、写真は、オフィスは、変化の萌芽が見えます。その先には生活の仕方、教育のあり方も変わるでしょうし、会社や国の概念も変わってしまうかも知れません。

コニカはこれまで培ってきた高精細度画像技術、光学技術、材料技術を基礎に、「The Imaging Solution Company」をキーワードに、これからの変化を先取りした技術開発に挑戦し続けております。すでに優れたデジタル技術関連の製品群を世に出しており、21世紀でもイノベーターとしての役割を果たして行きたいと思っております。その研究開発の活動の片鱗を、本テクニカルレポートで感じ取っていただければ幸いです。

今後とも厳しいご叱声と共に、種々のご意見を賜りますようお願いいたします。